

揖取魚彦 国学者、歌人。名著「古言梯」を著し、その後の歴史的仮名遣い研究に貢献。

かとりなひこ

火の見櫓制・1723 =

下総国香取郡佐原で、伊能景栄の子に生まれる。祖先は豊後国出身。尾形三郎維義の四世の孫神兵衛大輔景能が、下総国香取郡大須賀荘の地頭となり、伊能村に住んでから、その郷の名をもって氏としたという。

徂徠没・・・1728 = 5歳：父に死別し、以後、祖父の薫陶を受けながら、母に育てられる。

享保大飢饉・1732 = 9歳：

昆陽蕃諸考・1735 = 12歳：家督を相続して、名主役となるが、

・・・1741 = 18歳：

公事方御定書1742 = 19歳：市場の揉め事で、役職御免となり、追放される。

その間、近くの寺の摩訶に師事して、学問に励み、

徳川吉宗隠居1745 = 22歳：

・・・1749 = 26歳：覚書「喪志編」を書き始める。

・・・1750 = 27歳：

徳川吉宗没・1751 = 28歳：この頃、江戸に出、

早くから絵画に関心を寄せていたこともあって、建部綾足に従学し、梅・鯉を描くことに巧みであるとともに、綾足の影響で俳諧に遊んでいたが、

大式政治批判1759 = 36歳：最古参の門弟として、賀茂真淵に入門し、和歌・国学を学ぶ。

大岡忠光没・1760 = 37歳：この年、建部綾足の家を訪問し、のち佐原に招く。

・・・1763 = 40歳：この年、まだ青年だった村田春海が偶然京都で発見した「新選字鏡」を借用し考証するなどして、

千代女句集・1764 = 41歳：「古言梯」を完成させると、

錦絵始・・・1765 = 42歳：*家督を長子に譲って、江戸浜町の真淵の家の近くに居住し、日夜、真淵に教を請うとともに、「古言梯」を刊行して、歴史的仮名遣いの研究に大きく貢献、ついに加藤千蔭・村田春海・加藤宇万伎とともに、県居四天王の一人に数えられた。

久留米藩工事1768 = 45歳：祝いの歌会が開催される。

・・・1769 = 46歳：妻を伴って江戸を立ち、大和を旅して飛鳥に入る。*真淵の死後、二百人を越す門人が集まり、豊前中津藩主奥平昌庵は、月俸を給してその教を請うたと伝え、上野の法親王からも寵を賜ったという。

田沼意次老中1772 = 49歳：この年から、茅生庵で万葉購読会を始める。

「万葉集」「土佐日記」研究の他、音韻・語学の研究にも秀れ、多くの著述を著わしたが、

解体新書・・・1774 = 51歳：なかでもこの年成った「万葉集千歌」は、真淵の「万葉新百首解」藍本になったという。

黄表紙始・・・1775 = 52歳：万葉購読会を完了して、祝賀の歌宴を開く。

・・・1777 = 54歳：

源内獄中死・1779 = 56歳：歌人でもあった妻が死去、その痛手からか*中風で倒れ、

・・・1780 = 57歳：若干回復したところで、遺言状をしたため、

・・・1781 = 58歳：師真淵の十三回忌を営んで、「県居文歌編」二巻を編み、旋頭歌を捧げ、

天明大飢饉始1782 = 59歳：没した。

著書はほかに「県居蔵書目録編」「うたふくろ」「大船揖取魚彦雑集」「揖取魚彦家集」「続冠辞考編」「土佐日記県居説編」「櫓の嬌手」「万葉集寛宴歌編」「万葉集新釈」「万葉集名所歌集」など。のちに伊能忠敬が婿入りする伊能家とつながり、熟年まで名主として働き、家督譲渡の上、取り組むようになる点でも良く似ている。